

園長だより

「新型コロナウイルスに負けないぞ」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、保育園では行事を中止したり、お友達との距離を取って遊ばせたりするなど、さまざまな感染防止策が進められています。子どもの健康のためにしかたのないこととはいえ、これまでできていたことができなくなるのは、少しさびしい感じかもしれませんが、従来の行事のありかたなど問題を見つめ直すいい機会ではないでしょうか。



親にとって、運動会などの行事は子どもの成長を確認できるいい機会。しかし「保護者に見せること」が目的化してしまうと、本来子どもにとって必要な遊びが犠牲になってしまう弊害もあります。それでは本末転倒ということで、日ごろの遊びや活動を見ていただいたほうが、子どもの普段の生活や成長の姿を確認しやすいではないか思います。

保育施設の感染症予防策として、子どもたちが互いに接触する機会を減らす取り組みも進んでいます。歌をうたうのも、食事をするのも、体を動かすのも、ほかの子どもとしっかりと距離を取る。これもしかたがないこととはいえ、のび

のびとできないことで、子どもの発育に影響はないのでしょうかとの心配がありますが、子どもの遊びというのはとてもバリエーション豊かなので、心配する必要はありません。たとえ一人遊びが多くなっても、子どもは一人でまわりのことに注意関心を向けながら、いろいろな経験をしています。その中で獲得するものも実は多いのです。一人遊びと集団遊びのバランスが変わってくることは考えられますが、集団遊びが減るといっても、お友だちと距離を置いた中でも成立する遊びはあります。どんな遊びにもメリットはありますので、今までしていなかった遊びを体験させる機会になっていると考えればいいのではないのでしょうか。

ごっこ遊びやふり遊びなど、イマジネーションを広げる遊びを増やすのがいいと思います。外で自由に動き回れなくても、子どもはじっとしていられず、狭い室内でも立ったり動き回ったりするので、実はそれで一日の体を使う運動量はたりてしまうと思います。

園でも家でも、マットの上で飛び跳ねたり、ダンボールで家や迷路をつくってぐるぐる動き回ったりという遊びはできます。できないことは増えますが、出来る工夫はいくらでもあり、それを子どもと一緒に考えてみるといいかもしれませんね。

感染症予防対策は今後も続きますが、アフターコロナに向けて、保育園はいろいろある可能性のうちの一つとして、園の運営が効率化されることが考えられます。たとえばオンライン研修などを活用すれば、会場まで出かける時間や費用が抑えられ、個々のスキルアップが進みやすくなることが考えられます。

コロナ関連のニュースでは、マイナス面ばかりがクローズアップされるので、園がどうなっているのか、子どもはどう過ごしているのかということが不安になってしまうかもしれません。しかし実際の現場では、先生たちが知恵をしばって、子どもたちが楽しく遊ぶ工夫をしています。制限される中でも、大人が「できない」と決めつけるのではなく、感染症対策に気をつけながらどうやれば実現できるかを考えて、どんどん新しい遊びを考える子どもをサポートしていきたいです。